

## 令和7年度 江南市高齢者福祉審議会 会議録

日時	令和8年1月29日(木) 午後1時30分～午後3時45分
場所	江南市役所2階 大会議室
出席者	委員長 伊藤 美智予 副委員長 武田 篤司 委員 浅野 加津彦 石川 幹男 上田 哲司 有働 奈央 大池 泰子 近藤 直樹 鈴木 智子 千田 哲矢 高橋 正博 土屋 匡史 野田 智子 松本 繁 宮道 未利子
欠席者	委員 内田 吉信 日比野 栄寿
事務局	介護保険課、地域ふくし課、ふくし支援課、保険年金課、健康づくり課、各地域包括支援センター
会議の公開	公開
傍聴者数	0名

### 1. 会議次第

1 あいさつ

2 委員長、副委員長の選任

3 議題

(1) 江南市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の推進状況について(資料1、参考資料1-1)

(2) 地域包括支援センターの事業計画進捗状況について(資料2-1~6、参考資料2-1~2)

(3) 介護保険及び高齢者福祉実態調査について(資料3、参考資料3-1~4㊦)

(4) 地域密着型サービス事業者の公募結果について(資料4)

(5) 介護保険料等における基準額の調整について(資料5、参考資料5-1~2)

(6) 介護保険料の普通徴収に係る納期変更について(資料6)

(7) 地域課題の対応方針について(資料7、参考資料7-1)

(8) 重層的支援体制整備事業について(資料8)

4 その他

## 2. 会議経過

### 1 あいさつ

市長より、あいさつ

(市長は他の公務のため、ここで退席)

(事務局)

本審議会は、従来、介護保険事業計画および高齢者福祉計画の策定・推進について検討する場として設置されてきた。令和6年の認知症基本法施行に伴い、市町村において認知症施策推進計画の策定が努力義務とされたことを受け、江南市においても本審議会を同計画の検討の場に位置付けることとした。

本審議会は以下の事項について総合的かつ多面的に検討することを目的とする

- ・介護保険事業計画の策定と推進
- ・高齢者福祉計画の策定と推進
- ・認知症施策推進計画の策定と推進
- ・地域包括ケアシステムの構築および推進
- ・地域包括支援センターの運営
- ・地域密着型サービスの整備
- ・その他高齢者福祉に関する重要事項

委員各位には、学識経験および地域活動での経験を踏まえ、それぞれの立場からの意見をいただき、江南市の高齢者施策の実効性向上に向けた協力をお願いする旨が述べられた。

**\*\*委員の自己紹介\*\***

委員一同より自己紹介

**\*\*事務局の自己紹介\*\***

ふくし部長ほか、関係職員より自己紹介

### 2 委員長、副委員長の選任

江南市高齢者福祉審議会設置要綱第5条第2項に基づき、委員長および副委員長の選出指名推選の方法により、以下の者が選出

委員長：伊藤委員

副委員長：武田委員

伊藤委員長および武田副委員長より、あいさつ

### 3 議題

#### (1) 江南市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の推進状況について

事務局より説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(委員)

5 ページ(3) 施設サービスの利用状況で、老健施設利用者数の実績が増加している。施設には枠(定員)があると思うが、増加した理由を教えてください。

(事務局)

利用者数の実績は増加しているが、江南市内の施設数や定員数に増減はなく、特段な理由はない。

(委員)

6 ページの7 保険給付費の推移と8 地域支援事業費の推移について、計画値と実績値の乖離があり、その乖離を少なくする必要がある。介護保険制度が始まった当時は基金に余裕があり、徐々に取り崩して運営してきた実績があるが、現在のところどれだけの基金があるか。

(事務局)

計画値と実績の乖離については、8 期については新型コロナウイルスの影響があり、予想以上に利用状況が少なかったということで基金を積み上げることになった。9 期の策定では基金の8割を投入して、コロナ禍があけたところで、利用が伸びると想定して計画をたてたが、利用状況については、想定より要支援の人数が増え、要介護の人数少なかったことで乖離が出た。令和6年度は基金を崩す金額と前年度から積み上げる金額が同じ位だったため、現在、基金に変動はない状況となっている。

(委員)

2 ページの要介護度別認定者数の推移をみると、要支援1・2、要介護1で前年度より増えているが、要介護2以下は減っている。その辺りの読みとコロナの影響はかなり大きいのが計画値と実績値を客観的に精査してほしい。それが適正な介護給付費や介護保険料に繋がる。

(事務局)

来年度の保険料改定の検討時に、委員のご意見を参考にし、検討していく。

(委員)

9ページの介護認定申請受付数における令和6年度の変更申請について、認定結果が通知された直後に申請された件数も含まれているか。江南市の判定基準は厳しいという意見を利用者等から聞くがどうか。

(事務局)

変更申請については、認定結果が通知された直後に申請された件数も含まれている。

審査は全国統一基準に基づいて、認定調査時点の状況にて判定しておりますので、江南市の判定基準が厳しいという認識はない。

(委員)

7ページの令和6年度介護保険料決算の普通徴収について、収納率を向上させるために特別徴収(年金天引き)に変更していく取組が必要と思うがどうか。

(事務局)

年間年金収入額や受給年金の種類によっては特別徴収ができない場合があるとともにも65歳到達者、江南市への転入者は、特別徴収に切り替わるのに1年程度かかる場合がある。普通徴収期間内の納付については納付の周知、徴収強化することを検討するとともにも来年度4月に給付制限の要綱を制定し、公平性、介護保険制度の適正な運営を図っていく。

(委員)

介護認定の重度化・軽度化の数値を教えて欲しい。

(事務局)

手持ち資料がないため、後日お示しする。

(委員)

21ページの令和7年度保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金の評価結果をみると、800満点中356点である。全国平均は435点、愛知県内平均が451点である。江南市は昨年度よりは点数が上がっているが、愛知県全体が、全国平均と比べて高い。参考に一宮市は559点、名古屋市は541点、最高点は大府市で616点である。

国の示す基準に従うこともないし、独自の取組を行えばいいと思うが、アⅢ介護人材確保取組状況、庁内外の連携体制等が低い。イⅠデータ活用による課題把握、介護予防/生活支援の体制整

備等は江南市の問題点だと思う。

必ずしも、国の示す基準に従うことはないが、インセンティブとして交付金に影響してくるので、このあたりに弱点があることを市として評価結果を分析して、今後の取組に活かしてほしい。

(事務局)

今回の評価結果は令和5年度、6年度の結果となるが、介護人材確保取組状況やデータ活用による課題把握などが低い評価となった。他自治体の評価結果とも比較することで、江南市の弱い部分を把握するとともに、他自治体の好事例を参考にすることで、今後の江南市の取組に活かしていきたい。

## (2) 地域包括支援センターの事業計画進捗状況について

事務局より説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(委員)

各地域包括支援センターにおいて、センターごとに職員数がまちまちであるにもかかわらず、委託料が同額である理由は何か。

(事務局)

参考資料2-1にあるように、地域包括支援センターの職員数は北部包括が9人、中部包括が7人、南部包括が5人と異なっているが、委託料の算定にあたっては、江南市の条例の規定による(各圏域の)第1号被保険者数に応じた必要職員数5人を基に算定するため、委託料は同額となる。

(委員)

各包括ごとに職員数が異なるのに、委託料が同額ということは納得しがたい。また、各包括ごとに業務量が異なるのではないか。例えば介護予防ケアマネジメントについて、ケアプラン作成数が北部包括218件、中部包括116件、南部包括108件となっている。権利擁護事業対応件数については北部包括205件、中部包括141件、南部包括87件と差が生じている。委託料の在り方を検討すべきでは。

(本日の会議には事務局として)包括の職員が参加しているので、包括自身の考えを聞かせて欲しい。

#### (北部包括)

北部包括としては包括の本来業務に注力するため、ケアプラン作成を居宅介護支援事業所に委託したいが断られてしまい、包括で作成している状況である。権利擁護事業の虐待関係の件数が多いことについては、地域性によるものかもしれないが、業務の進め方については市と協力しながら進めていきたい。

#### (中部包括)

包括の業務量はかなり多く、委託料に関しては、法人本体の費用負担で賄っている部分もある。ケアプラン作成に関しては、市内のケアマネジャーが高齢化しており、廃止された事業所もある。ケアマネジャーの確保について、市を全体で取り組まなければならないと考えている。

#### (南部包括)

包括職員のうちプランナーが退職したことから、ケアプラン作成件数が少なくなった現状がある。しかしながら、介護保険制度を利用することなく、地域資源によって生活を営むことを考えていることから、必ずしもケアプラン作成件数が包括の業務量を示すものでもないと考えている。ケアマネジャー不足は深刻なので、ICT化を進めていかなければならないと感じている。

#### (委員)

包括が受けた相談件数の実数はいくつか。

#### (事務局)

北部包括 1,428 件、中部包括 1,752 件、南部包括 2,579 件であった。

#### (委員)

参考資料 2-2 の「地域包括ケアシステムの構築・推進」について、北部包括が 0%、中部包括が 75%、南部包括が 50% と大きなバラツキがあるが、市としてはどのように考えるか。

#### (事務局)

令和 6 年度の実績は資料のとおり。北部包括は地域課題の提出が 0 件と皆無であったが、その是正を図るため令和 7 年度は地域課題の提出がされ、改善された。

### (3) 介護保険及び高齢者福祉実態調査について

事務局より説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(委員)

参考資料3-2、5ページの問3の3「制度を利用しやすくする職場づくり」という選択肢が抽象的で何を示しているかよく分からないがどうか。

(事務局)

国の示す項目を採用しており、全国保険者と比較のため、この選択肢としている。

(委員)

会社独自の制度なのか、法的な制度なのか分かりにくい。

(事務局)

今回は質問項目を変えられないが、次回作成する際は参考にする。

(委員)

設問は変えられないということだが、表紙は変えられるか。江南市の電話窓口受付時間が昨年10月から9時から16時になったことについて、事業所調査は書いてあるが、一般向けの調査には書いていない。

(事務局)

表紙は江南市の独自部分であり、変えられる箇所ではあるが、既に印刷しており、修正することはできない。

(委員)

この調査は、審議会を通さないといけない。今までの経緯をみると、事前に審議会に出たケースが多い。直しが効かないのは今回が初めてである。審議会に諮問すべきである。

(委員長)

私からも指摘したが、難しいと回答であった。審議会で諮問し、委員の意見を取り入れるべきであり、今後事務局には検討してほしいがどうか。

(事務局)

そのとおりである。今回はWeb回答フォームの作成により、諮問する機会が取れない不手際があり、申し訳なく思う。今回指摘された意見を、次期策定の改善に繋げていきたい。今回は、調査

結果報告の際に意見をいただきたい。

#### (4) 地域密着型サービス事業者の公募結果について

事務局より説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(委員)

看護小規模多機能型居宅介護事業所の公募は全国的に厳しい状況で、利用料金が若干高く、他の訪問看護や訪問介護と併用できないというデメリットがある。その中でインセンティブ交付金を取るために、江南市は2026年に国の重点支援交付金が8億7,138万円入ってくるが、それを活用することはできないか。

(事務局)

重点支援交付金は物価高騰対策として国から8億円程度いただくが、国からメニューが示されており、特に今回は市民や中小企業に対して行うことが示されており、市民にどう還元するかを検討している。

(委員)

要望だけ出してほしい。

(事務局)

重点支援交付金の協議は続けているが、このような要望があったことは幹部会議でも精査していきたい。

#### (5) 介護保険料等における基準額の調整について

事務局より説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(委員)

質疑なし

## (6) 介護保険料の普通徴収に係る納期変更について

事務局より説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(委員)

質疑なし

## (7) 地域課題の対応方針について

事務局より説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(委員)

病院との連携について、今後の取り組み方針について質問。

(事務局)

介護保険課が担当し、医師会等の関係機関と協力して対応を進めていく。

(委員)

民生委員と町内会・区長の連携が少ない件について、一部地域で行っている連携の事例紹介や、ホームページに公開している民生委員の活動紹介動画を紹介。今後とも民生委員として、地域へのPRに協力する。

(委員)

過去に区長を務めた自身の経験から、市が開催する新任区長への説明会において、民生委員についてお知らせしてはどうか。

(委員)

現在民生委員を務めており、過去に区長を務めた自身の経験から、区が民生委員の活動を知ることができる機会の確保されることが望ましい。

(事務局)

貴重なご意見として、今後の対応の参考にする。

#### (8) 重層的支援体制整備事業について

事務局より説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(委員)

先程、地域包括支援センター職員よりケアマネジャーの高齢化による退職、介護士の人材不足、ケアマネジャーや介護士の人材確保について、私も興味を持ち、ニュースをみていたところ、介護士の資格所持者は多くいるが、就労者は半分位という状況になっており、介護士、看護師と同様にケアマネジャーも給与体系自体が安いのではないかと。私も今後高齢者になった時、在宅介護の利用時に介護してくれる人がいるのか不安になる。現在、多様な支援体制はあるが、根本が人なので、人材確保の具体策があるのだろうか。先程、施設整備の話もあったが、おそらく人材確保の困難により整備できないと思う。それに対するサポートなどを議題の中に取り入れていかないと、江南市でも人材不足になっていくと思うがどうか。

(事務局)

このような体制を整えるには多様な協力が必要であり、今までのような高齢者を支援する観点から、皆様で支えていくという考え方も出てきている中で、やはり専門職の人材確保が大きな課題となっている。今回の保険者機能強化推進交付金等の評価でも人材確保の部分で、江南市の点数が低かった。国、県においても人材確保のため、介護職員のイメージアップの施策がされている。江南市でも、今年度の11月11日、介護の日にパンフレットやポスターを掲示したり、愛知県立古知野高等学校における介護の取組みを紹介する県が作成したテレビ番組を江南市のSNSで周知するなどの取組をした。江南市がやれることを今後の計画策定において、意見をいただきながら検討していく。

#### 4 その他

(事務局)

**\*\*次年度の予定\*\***

令和8年度は第10期介護保険事業計画、高齢者福祉計画、認知症施策推進計画の策定を行うため、約5回程度の審議会を開催予定。

次回（第1回）の審議会では、江南市介護保険及び高齢者福祉実態調査結果報告、介護報酬改定等を議題とし、計画策定に向けた具体的な検討を開始する予定。

(事務局)

\*\*閉会\*\*

以上のとおり、本日の議事が終了した旨が宣言され、会議は散会した。